

復刊にあたって

広島文化学園大学ネットワーク社会研究センター長 今田寛典

1995年、アメリカ Micro Soft 社が Microsoft Windows 95 Operating System を出して一気に社会の情報化が進んだ。特に、Windows 95 はネットワーク機能が充実しており、インターネットに接続できるとして大変な人気となった。これ以来一般の人も含めてインターネット利用者が急激に増加していくこととなった。

こういった状況の中、2000年、本学の前身である呉大学社会情報学部に呉大学ネットワーク社会研究センターが設立され、高度情報化社会において地域社会が抱える諸問題について研究し、地域社会への知的貢献を目指した。

2001年3月には本研究センターの年報の創刊号を発行した。しかし、諸般の事情より2005年を最後にセンターの活動を休止した。

以来今日まで、4年が過ぎた。この間、わずか4年であるが、情報社会の進展は急激であり、私たちは、アメリカで起きたリーマンショックが、またギリシャで起こった経済危機が、瞬時に世界に伝わり、瞬時に世界同時経済危機が生じた経験をしている。この世界同時経済危機は、この呉地区、広島地区にも大変大きな影響を及ぼした。

こういった高度情報社会において、私たち、広島文化学園大学は、ネット社会におけるさまざまな問題について IT を用いて研究を進め、地域社会の経済、環境、福祉の側面から貢献することを目指して研究年報を再刊することとした。

研究成果を公開することによって、私たち教員および学生が自らの研究成果を大学内という狭い殻の中にとどまらず、広く第三者からの評価を受け、一層の研究向上目指し、さらに地域社会に貢献することを目指すものである。

本号は Vol.6 であるが、過去4年間休刊していた間の合併号であることを付記しておきたい。

過去の Vol.1～5 の実績を基本として復刊したものである。